

新型コロナウイルス感染症流行下で 社会的に脆弱な立場にある人々を支援 ～誰一人取り残さない～

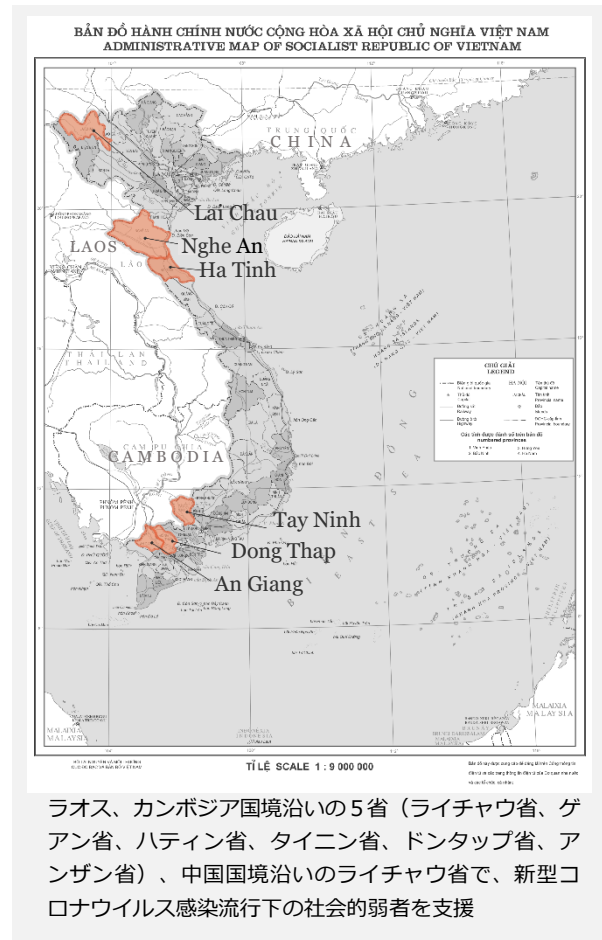
ベトナムは人口の約 14%を 53 の少数民族が占め、その多くが国境近くに暮らし、独自の言語を持っています。政府のコロナウイルス水際対策や情報弱者の支援に対し、JICA はパートナー機関のリソースを活用しつつ、きめ細かに対応しています。



ベトナム北部の田園風景



ベトナム北中部ゲアン省の少数民族の村



ラオス、カンボジア国境沿いの5省（ライチャウ省、ゲアン省、ハティン省、タイニン省、ドンタップ省、アンザン省）、中国国境沿いのライチャウ省で、新型コロナウイルス感染流行下の社会的弱者を支援

多言語対応でラオス、カンボジア国境地域の新型コロナウイルス感染症対策に協力

2021年7月～2022年1月、JICAは、技術協力「感染症の予防・対応能力向上のための実験室の機能及び連携強化プロジェクト」を通じ、ラオス、カンボジア国境沿いの5省に対する新型コロナウイルス感染拡大予防・防疫体制強化のための国境管理支援を国際移住機関（IOM）の協力を得て実施しました。



「コロナ禍における感染予防と対策セミナー」の参加者



感染対策スローガンや健康申告のポスターを、ラオス語とクメール語で作成

同プロジェクトを通じ、IOM と保健省が共同で、カンボジア国境沿いの3省（タイニン、ドンタップ、アンザン省）に対し「コロナ禍における感染予防と対策セミナー」を開催、JICA からは清水ベトナム事務所長が出席し、国境をまたぐ物流、人流を注視した効果的な防疫を各機関が協力して行うことの必要性を述べ、3省の国境管理にあたる省疾病管理センターや保健センター、入国管理局、国境警備隊の職員ら関係者を激励しました。



ポスターは国境周りで使用されています（ハティン省）

また JICA は、保健省のスローガンである 5K（マスク着用、消毒、間隔、大勢で集まらない、健康申告）をはじめ、新型コロナ感染予防のための行動や、健康申告を促すポスターを少数民族でも理解できるよう、ラオス語、クメール語で作成しました。

安全なワクチン接種及び、少数民族のワクチン接種に関する正しい理解を促進



ワクチン接種に訪れた少数民族の女性



上：接種会場に設置される酸素タンク

下：各民族の言語で作成された音声ディスク

中国に国境を接するライチャウ省において、JICA は「ライチャウ省 COVID-19 ワクチン接種体制の整備・能力強化」を実施し、同省保健局の「ライチャウ省ワクチン接種計画 2020-2022」を支援しています。同プロジェクトを通じ、ワクチン接種会場への設置が義務付けられている資機材（非接触式体温計、血圧計、手指消毒剤等）を同省 116 か所の接種会場に整備したほか、医療関係者への研修を実施しました。

また同省保健局は、少数民族が 8 割以上を占める地域住民向けのコミュニケーション教材として、ポスターやリーフレットの作成とともに、各民族の言語による音声ディスクを作成し、接種会場のある自治体に配布しました。音声ディスクを、公共放送を使って流すことで、文字を持たない、または読めない少数民族もワクチン接種について正しく理解し、接種会場に足を運んでもらうことが目的です。このライチャウ省保健局のアイデアは、IOM にも評価され、共有された音声ディスク及びスクリプトのさらなる活用が期待されています。

JICA は 2012 年にも、ポリオ変異ウイルスの伝搬を食い止めるためのキャンペーンの一環で、少数民族の音声放送を行い、言語が障害となってワクチン接種を受けられない子供たちを支援しました。

地球規模で新型コロナウイルスを封じ込め、安心安全な暮らしを取り戻すため、JICA は引き続き感染症対策に取り組んでいきます。